

授業科目	子どものためのピアノⅡ					実務家教員担当科目	-				
単位	1	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期				
担当教員	山路 麻佳、飯田 知津子、井原 千璃、井原 花綸、加藤 愛子（保育）、本多 一江、吉富 淳子										
授業概要	<p>授業はグループに分かれて個別レッスンの形態で行う。</p> <p>「子どものためのピアノⅠ」で習得したピアノ演奏の基礎をもとに、各自の習熟度に合わせて表現豊かに演奏することができるよう、様々な音楽要素を学び技術の向上を目指す。保育の現場でよく用いられている曲を自分に合った伴奏形で弾き歌いの演奏ができるよう実践的に学ぶ。</p> <p>また、1年生前期科目「子どものためのピアノⅠ」の単位を修得できなかった学生については、これまでに到達した課題曲の続きからレッスンを開始し、当科目において「子どものためのピアノⅠ」の履修曲の確実な習得を目指す。</p> <p>個別レッスンに加え、少人数による中間発表の場を経験することで実践力の向上を目指す。</p>										
授業形態	演習				授業方法	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<p>1. 楽譜に記載されている音楽要素を正しく理解し演奏することができる。</p> <p>2. 弾き歌いにて演奏する力を身につけることができる。</p> <p>3. 適切なテンポで歌詞の内容や楽譜に記載されている強弱記号・発想記号をもとに、保育現場で活用することを前提とした表現力豊かな演奏をすることができる。</p> <p>『大学ピアノ教本』No. 90（バイエル 100 番）程度の曲や様々な伴奏形態による弾き歌い、マーチ曲を適切なテンポや正しいリズムで演奏することができる。正しく楽譜を理解し、保育の現場で必要となる子ども歌を、適切なテンポで楽譜通りに弾き歌いにて演奏することができる。</p>										
理想的レベル	<p>『大学ピアノ教本』No. 90（バイエル 100 番）以上の曲や様々な伴奏形態による弾き歌い、マーチ曲を適切なテンポや正しいリズムで演奏することができる。保育現場で必要となる子どもの歌を、適切なテンポで歌詞の内容や楽譜に記載されている強弱記号・発想記号をもとに、保育現場で活用することを前提とした表現力豊かな演奏をすることができる。</p>										
評価方法・評価割合											
評価方法			評価割合（数値）				備考				
試験											
小テスト											
レポート											
発表（口頭、プレゼンテーション）			50%								
レポート外の提出物											
その他			50%				課題に対する練習、授業への積極的な参加姿勢				
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	CH31330J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安（時間）	
提示される課題曲の練習に毎日取り組む										1	

授業計画	
第1回	<p>テーマ：オリエンテーション(全教員)</p> <p>授業概要について説明する</p> <p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン1</p> <p>教本 No. 69</p> <p>弾き歌い「とんぼのめがね」</p>
第2回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン2(全教員)</p> <p>教本 No. 70</p> <p>弾き歌い「まつぼっくり」「雪」</p>
第3回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン3(全教員)</p> <p>教本 No. 72</p> <p>弾き歌い「水あそび」</p>
第4回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン4(全教員)</p> <p>教本 No. 76</p> <p>弾き歌い「おかえりのうた」</p>
第5回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン5(全教員)</p> <p>教本 No. 78</p> <p>弾き歌い「思い出のアルバム」</p>
第6回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン6(全教員)</p> <p>教本 No. 81、No. 97(ジャバマーチ)</p>
第7回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン7(全教員)</p> <p>弾き歌い「おおきなたいこ」「ぞうさん」</p>
第8回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン8(全教員)</p> <p>弾き歌い「一年生になったら」「たなばたさま」</p>
第9回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン9(全教員)</p> <p>教本 No. 85</p> <p>弾き歌い「おはようのうた」</p>
第10回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン10(全教員)</p> <p>教本 No. 89</p> <p>弾き歌い「まめまき」</p>
第11回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン11(全教員)</p> <p>弾き歌い「こいのぼり」「しゃぼんだま」</p>
第12回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン12(全教員)</p> <p>弾き歌い「うれしいひなまつり」</p> <p>コード「どんぐりころころ」「お正月」</p>
第13回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン13(全教員)</p> <p>コード「山の音楽家」</p> <p>弾き歌い「おつかいありさん」「かたつむり」</p>
第14回	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン14(全教員)</p> <p>教本 No. 90</p> <p>弾き歌い「小鳥のうた」</p>

<p>第 15 回</p>	<p>テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 15(全教員) 課題曲の演奏発表と授業のまとめ</p>
<p>テキスト</p>	<p>『大学ピアノ教本』教育芸術社 小林美実『こどものうた 100』チャイルド本社</p>
<p>参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介</p>	<p>「マーチ」等のプリント（楽譜）を各自の進度に合わせて適宜配布する。</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>演奏課題については、その都度授業内でコメントを返します。</p>
<p>学生へのメッセージ・コメント</p>	<p>事前に歌詞の内容や記号・用語の意味について理解しておき、「子どものためのピアノⅠ」で習得したことを踏まえて様々な伴奏形態での弾き歌いの演奏技能を身につけていけるように練習しましょう。</p> <p>毎日の練習が大切です。毎回の授業の予習・復習として毎日 30 分以上の練習が望ましいですが、少なくとも 1 週間で合計 90 分以上の練習に取り組むよう心がけましょう。個人レッスン形式で一人ひとりに合わせて進めていきます。なるべく欠席することがないように取り組みましょう。</p>

